

代表者名	菊池 勇咲	所管部課名	産業労働部観光課
所在地	小坂町十和田湖字鉛山無番地	設立年月日	平成9年12月5日

【沿革及び県の出資理由】

歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えるとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月設立。

【出資者】(22年度当初) (千円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	100,000	40.0
市町村	3	25,000	10.0
その他	15	125,000	50.0
計	19	250,000	100.0

【事業】

主たる業務

十和田ホテルの諸施設の管理運営業務
酒類、食料品、土産物等の販売
上記各号に付帯する一切の業務

事業実績

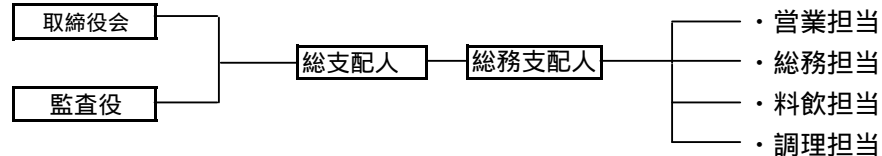
事業名等	19年度	20年度	21年度
宿泊客	17,722	14,359	16,374

21年度事業概要及び22年度事業計画・目標

平成21年度は、前年発生した鳥インフルエンザ・地震等の影響もなくなってきました。しかし雇用環境の悪化が個人消費は厳しい状況が続きました。このような状況下、宿泊客は16,374名(前期比2,115名 14.0%)休憩客は11,690名(前期比 602名 2.7%)となり、売上高は311百万円(前期比26百万円 9.3%)の計上となりました。平成22年度は単年度黒字経営を達成すべく宿泊商品ライアップ強化を実施し、またランチ営業を土日祝日に特化し経営の効率化を推進して参ります。

【組織】

運営機構



役員数 (H22.7.1現在) (人)

	取締役	監査役
常勤	1	
内、県退職者		
内、県職員		
非常勤	8	1
内、県退職者		
内、県職員	1	
計	9	1
内、県関係者	1	

職員数(H22.4.1現在)(人)

正職員	6	正職員 平均年齢	31.1歳	正職員 平均勤続年数	3.7年
内、県退職者					
内、県職員					
出向職員	1				
内、県職員					
臨時・嘱託					
内、県退職者					
計	7				
内、県関係者					
		正職員平均年収	3,500千円		

役員報酬支給対象者数	2人
役員報酬支給対象者平均年齢	57歳
平均役員報酬額	5,700千円/年

【財務】

損益状況(21年度) (千円)

	金額
経常収入 A	311,682
受託事業収入	
補助金収入	
自主事業収入	311,491
運用益収入	
その他	191
経常支出 B	334,952
人件費	120,049
その他	214,903
経常損益 C = A - B	23,270
経常外収入	
経常外支出・諸税	775
当期損益	24,045

財務状況(21年度末) (千円、%)

	金額	構成比
流動資産	51,135	85.8
固定資産	8,435	14.2
資産計	59,570	100.0
流動負債	16,800	28.2
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	16,800	28.2
資本金	250,000	419.7
剰余金	207,230	347.9
純資産計	42,770	71.8
負債・純資産計	59,570	100.0

(千円)

県の損失補償額	県の債務保証額
---------	---------

(千円、%)

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
			%

【県の財政支出】

(千円)

	19年度	20年度	21年度	支出目的・対象事業概要等
補助金				
委託費				
貸付残高				

1 主な経営指標

項目		単位	19年度	20年度	21年度	19-20増減	20-21増減
健全性	自己資本比率	%	93.31	86.52	71.80	6.79	14.72
	借入金依存率	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流動比率	%	1,352.80	640.99	304.38	711.81	336.61
収益性	剰余金（欠損金）	千円	117,087	183,184	207,230	66,097	24,046
	経常利益率	%	11.65	23.04	7.47	11.39	15.57
	総資本利益率	%	27.28	85.19	39.06	57.91	46.13
発展性	経常収入額	千円	333,471	285,525	311,682	47,946	26,157
効率性	総資本回転率		2.34	3.70	5.23	1.36	1.53
	職員1人当たり経常収入	千円	27,789	15,863	8,706	11,926	7,157
	人件費比率	%	35.20	42.65	38.52	7.45	4.13

2 経営目標の達成状況

経営目標			19年度	20年度	21年度	22年度
経営改善指標	経常利益額（千円）	目標	20,000	20,000	5,110	264
		実績	38,857	65,797	23,270	
	売上高経常利益率（%）	目標	5.7	5.7	1.4	0.0
		実績	11.7	23.1	7.5	
事業成果指標	売上高（千円）	目標	353,000	353,000	369,600	298,464
		実績	333,383	285,106	311,491	
	個人客宿泊人数（人）	目標	14,600	14,600	14,170	11,919
		実績	12,943	10,377	12,445	
顧客満足度指数	目標	87	86	88	90	
	実績	85	89	87		

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

平成21年度全館売上は対前年26百万の増、これは宿泊利用人員の対前年2,015名増で20百万増。要因は個人客利用が対前年2,115名増の22百万増(インタ-ネット経由予約が対前年660名増の9百万増と貢献)。
 本年度は全客層をターゲットに十和田ホテル及び周辺環境の魅力を最大限引き出した商品展開で顧客利用増を目指し、商品ラインアップ強化と販売チャネル拡大を図る。
 また、今年度は収支を厳しく見込み、不況下でも利益の出る経営体質への改善を進める。
<顧客満足度調査の結果を受けて実施する取組>
 1.お客様一声の収集により適時に改善を図ります。(特に接客マナ-)
 2.業務改善指導と業務改善提案により改善に努めます。
 3.改善指摘事項の確認と徹底指導に努めます。(ウォークスル-の徹底)

4 総合評価（計算書類等の資料及びヒアリングによる評価）

概ね安定した経営内容	一層の努力を要する経営内容
・個人客宿泊客数は、計画比1,725名の減少となったものの、前年度比2,068名増加の12,445名となり、前年度よりも、経常収入は26百万円増加した。これに加えて、緊急性の高い修繕のみに限定して実施したこと、原油価格下落による水道光熱費の減少により、経常支出も12百万円削減したことから、経常損失額は大幅に改善し23百万円となった。 ・次年度の予算は、個人客の減少を前提とした収入を見込んでいるため、経費を当年度よりも更に削減することが要諦であり、厳密なコスト管理が望まれる。	